

| 事業概要 | | |
|------------------|--|---|
| スキーム名 | 二国間クレジット制度（JCM）プロジェクト設備補助事業 ¹ | |
| 出資機関・実施機関 | 出資機関：環境省 事務局：公益財団法人地球環境センター（GEC） | |
| 概要 | 開発途上国における低炭素設備等導入事業の実施を支援することにより、低炭素技術等の導入を促進し、開発途上国における温室効果ガス（GHG）の削減とともに、二国間クレジット制度（JCM）を通じた我が国の GHG 排出削減に資することを目的として、「JCM を利用したプロジェクト設備補助事業」を実施している。 | |
| 適用条件 | 対象国 | 開発途上国 |
| | 対象事業 | 先進的な低炭素技術・インフラ及び製品の提供等を通じた海外における温室効果ガスの排出の抑制等への貢献を定量的に評価し、我が国の削減目標の達成に活用できる事業 |
| | 助成額 | 設備投資額の 50% |
| | 助成対象 | 企業または団体 |
| 適用例 ² | | |
| 対象国 | インドネシア | |
| 事業名 | パーム残渣バイオマス発電プロジェクト | |
| 実施者 | 清水建設(株) | |
| 事業概要 | インドネシア北スマトラ州のセイマンケイ工業団地内に計画しているパーム残渣を利用したバイオマス発電プロジェクト。今まで有効活用できずに大量に廃棄されていた、パーム残渣（空果房：EFB）を日本の先進的なボイラー技術で燃料として利用。発電した電力は、工業団地内の企業に供給。 | |
| 対象国 | カンボジア | |
| 事業名 | スターリングエンジンをを用いた小規模バイオマス発電 | |
| 実施者 | プロマテリアル、正英製作所 | |
| 事業概要 | カンボジアには大小約3万箇所の精米工場が存在しているが、所内電力はディーゼル自家発電で賄っている精米工場が多い。そこに、籾殻発電を導入し、ディーゼル由来の電力を代替することで、CO2排出量を削減する。 | |
| 対象国 | モンゴル | |
| 事業名 | 高効率型熱供給ボイラの集約化に係る更新・新設プロジェクト | |
| 実施者 | 数理計画 | |
| 事業概要 | ornuur sum（Bornuur 郡）において、施設個別に使われている旧型の低効率熱供給ボイラ（HOB）の使用を止め、複数の高効率熱供給ボイラ（HOB）を集約的に導入し、暖房用温水を複数施設に供給する。HOB 集約化に合わせて、配管・電設設備も整備し、集中制御システムにより高効率 HOB の運転管理を行うとともに、排ガスの温度及び含有酸素濃度などの計測結果に基づき、ボイラ運転最適化のための日本人技術者による技術指導を行い、オペレーション技術を移転する。ボイラ効率の改善 | |

¹ 公益財団法人 地球環境センター 二国間クレジット制度（JCM）を利用したプロジェクト設備補助事業、<http://gec.jp/main.nsf/jp/Activities-GHGmitimecha-jcmfinancingprogramme> (2014-12-5 参照)

² 公益財団法人 地球環境センター JCM ウェブサイト 事例紹介、<http://gec.jp/jcm/jp/projects/index.html> (2014-12-5 参照)

| | |
|--|---|
| | (低効率 HOB から高効率 HOB への転換) は、ボイラ燃料である石炭の消費量削減に寄与するため、CO2 排出量及び他の大気汚染物質の排出量を削減できる。 |
|--|---|